



三船文彰

(みふね ぶんしょう)

1954年台湾台南生まれ。岡山朝日高等学校、国立台湾大学歯学部卒業。岡山大学口腔外科を経て、33年前より岡山市で歯科医院を開業。

14歳の時に父親の抽象画家、劉生容とともに日本に移住。幼少より父からヴァイオリンの手ほどきをうけ、14歳のときにチェロに転向。チェリスト岩崎洸氏の導きで、故郷藤秀雄氏の最後の門下生となる。多くの日本を代表する音楽家との交流を始める。

大学時代より盛んにチェロ演奏を行い、音楽プロデューサーとしても、25年前より内外の一流の演奏家を

招いての一期一会のコンサートを120回以上企画し、すべて成功に導いた。

中でも2003年から伝説のピアノの巨匠ルース・スレンチェンスカをアメリカから招き、78歳の日本初演から93歳のサントリーホール・コンサートまで、30数回の歴史的なコンサートを行い、NHKやOHKがドキュメンタリー番組を放送し、劉生容記念館レーベルの「ルース・スレンチェンスカの芸術」19枚のCDが「レコード芸術」誌で特撰に取り上げられるなど、ピアノ演奏史に豊饒なる1ページを付け加えた。

2011年4月 臺灣台南の奇美博物館の銘器2本を貸与され、岡山の4都市で久保陽子氏の独奏による「八田興一記念及び東日本大震災追悼コンサート」を行う。

2011年12月 東京の求道会館で(一社)大学女性協会の主催による「東日本大震災慈善チェロリサイタル」を行い、美智子皇后陛下ご臨席の栄誉を賜る。

2012年 久保陽子氏とともに被災地雄勝町などを巡回演奏。台北でも、奇美博物館の銘器を使用し、台湾の大震災への援助に対しての「ありがとう台湾」コンサートを開催。

2013年12月に御所に招かれ美智子皇后陛下とシュベールのピアノ三重奏曲を演奏。

2014年より 弘中孝氏と岡山、東京、大阪、台南でフランク、ショパン、ラフマニノフのチェロ・ソナタを多数演奏。

2017年 岡山ルネスホールにて内外の劉ファミリー20名による「Liu三船ファミリーArt Ensemble」を開催。

2018年 サントリーホールでの「ルース・スレンチェンスカ ピアノ・リサイタル」が奇跡のコンサートとして多くの音楽愛好家の記憶に刻まれた。

2019年9月13日 紀尾井ホールにてクララ・シューマン所有のピアノと奇美博物館蔵のヨアヒムのストラディバリを使用し、「クララ・シューマン生誕200年バースデー・コンサート」を開催。

2020年4月 岡山シンフォニーホールと紀尾井ホールで準備したルース・スレンチェンスカ(95歳)の「ベートーヴェン生誕250年記念 ピアノ・リサイタル」はコロナ禍のため中止となる。

<http://liu-mifune-art.jp>



弘中 孝

(ひろなか たかし)

6歳からピアノを始め、東貞一、井口愛子、井口基成の諸氏に師事。桐朋学園に学ぶ。

1961年第30回日本音楽コンクール第一位、特賞ならびに安宅賞を受賞。その後ヴァン・クライバーン国際コンクール入賞。シフ国際コンクール第一位。ロシニエ・ポー国際コンクール第4位入賞。

1963年から1965年フルブライト給費留学生としてジュリアード音楽院に留学、S.ゴロニツキー教授に師事。1966年から1969年マルセイユ音楽院にてP.バルゼビ氏に師事。

1969年より本格的な演奏活動を開始。オーケストラとの共演、リサイタルや室内楽の分野でも1974年に結成した桐五重奏団を中心に国内外で活躍。また国際コンクールの審査員、音楽祭ディレクターをつとめるなど現在に至るまで多彩な活動を続けている。

2013年3月まで東京音楽大学教授として後進の指導にあたる。

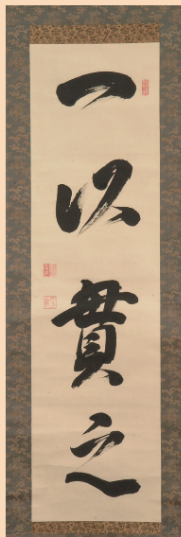
これまでに、ソロCDアルバム「ブラームス：ピアノ作品集」「ブラームス：ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ」、「シューマン：交響的練習曲」をリリース、各方面から高い評価を得る。



黄鶴図
池田宗政 筆
林原美術館蔵



封侯図
池田宗政 筆
林原美術館蔵



書「一以貫之」
池田宗政 書
林原美術館蔵

Sergei Rachmaninov

ロマンチズムの極致 2大チェロソナタ リサイタル

CHOPIN

2020年
10月24日(土)
林原美術館(岡山)
主催 林原美術館

12月12日(土)
紀尾井ホール(東京)
主催 劉生容記念館・岡山
Liu Mifune Art Ensemble